

西暦	出来事
1926	油屋熊八が松の台にテントホテル開設、朝日長者伝説にちなんで地名を「長者ヶ原（のちの「長者原」）」と命名
1931	国立公園法施行
1934	阿蘇国立公園指定（阿蘇地域およびくじゅう連山一帯までが当初区域として指定）
1950	「法華院観音堂」建立・落成式
1951	九重山「山開き」開始
1953	湯布院盆地・小田池・鶴見岳周辺が阿蘇国立公園に拡張指定
1957	国立公園法廃止、自然公園法施行
1952	川端康成氏がくじゅうを訪れる（小説「波千鳥」取材）
1953	川端康成氏が再度くじゅうを訪れる（小説「波千鳥」取材）
1955	東飯田村、野上町、飯田村、南山田村が合併して九重町となる
1958	阿蘇国立公園長者原駐在管理員配置（環境庁）
1959	「飯田高原カイドクラブ」設立（「九重の自然を守る会」の前身）
1960	九重地区中心部特別保護地区指定等を主目的とした「九州山岳保護協会」が設立される
	「すがもり小屋」が建設される
1961	「九重の自然を守る会」が発足
	九州横断道路の水分峠－牧ノ戸峠－瀬の本－宮地間の本格的建設が始まる
	「大船山のミヤマキリシマ群落」が国の天然記念物に指定
1962	1月に北千里浜にて大遭難事故発生 7名死亡
	「すがもり小屋」に愛の鐘が設置される
	「九重の自然を守る会」が、ケルン35基を北千里浜に設置
	「九重山のコケモモ群落」が国の天然記念物に指定
1963	大雪被害（平野部で50cm、山間部では1.5mの積雪）
1964	「長者原を美しくする会」が発足（「くじゅう地区管理運営協議会」の前身）
	九州横断道路「やまなみハイウェイ」が全線開通
1966	「長者原ビジターセンター」が建設される（国内で第4号目）（環境庁）
1968	大雪被害（平野部で75cmの積雪）
	「法華院五輪塔」建立・式典
	「くじゅう総合学術調査報告書」が発行される（大分大学教育学部）
	自然公園指導員制度の創設

1971	「与謝野寛、晶子夫妻歌碑」建立（久住高原）
	九重山硫黄鉱山の閉鎖
1974	大雪被害（飯田高原で1mの積雪）
	川端康成文学碑建立、除幕式（飯田高原・大將軍）
1978	環境庁「ミヤマキリシマ害虫駆除及び管理方針検討調査」
1981	国立公園法50周年記念大会で「九重の自然を守る会」が「環境庁長官表彰」を受賞
1983	「長者原を美しくする会」解散、「くじゅう地区管理運営協議会」発足
	南阿蘇ビジターセンター開館（環境庁）
1984	「九重の自然を守る会」が「朝日森林文化賞」を受賞
	阿蘇国立公園指定50周年記念式典
	映画「乱」（黒澤明監督）の撮影（飯田高原一帯）
1985	「男池湧水群」が日本名水百選に選定
1986	「阿蘇国立公園」から「阿蘇くじゅう国立公園」に名称変更、公園区域もほぼ現在の形となる
1988	高田力蔵画伯「九重油絵展」「記念講演」（九重星生ホテル）
	「阿蘇くじゅう国立公園くじゅう地域学術調査報告書」が発行される（大分県）
1989	「大分自動車道」（湯布院～別府間）開通
	九重町道「泉水グリーンロード」開通
1990	「九重の自然を守る会」が「大分合同新聞文化賞（特別功労賞）」を受賞
1992	くじゅう連山を舞台にした、東宝創立60周年記念映画「奇跡の山～さよなら、名犬平治～」が全国各地で上映される
1994	タテ原湿原で8年ぶりに野焼き実施
	九州横断道路「やまなみハイウェイ」が完全無料化
	阿蘇くじゅう国立公園60周年記念シンポジウム
1995	硫黄山が257年ぶりに噴火
	第1回全国野焼きシンポジウム・全国野焼きサミット（久住町）
1996	平治岳で「一人一石運動」が始まる（九重の自然を守る会）
1997	「飯田高原野焼き実行委員会」が結成される／飯田高原・タテ原湿原の野焼きが復活
	「新」長者原ビジターセンターが建設される（エコ・ミュージアム事業）（環境庁）
	「第39回自然公園大会」が飯田高原で開催される／常陸宮殿下御臨席
	「すがもり小屋」の取り壊し
1998	タテ原湿原に環境庁直轄木道が整備される
1999	「くじゅう黒岳地域自然環境学術調査報告書」が発行される（大分県・庄内町・久住町）

2000	「坊ガツル野焼き実行委員会」が結成される／坊ガツルの野焼きが32年ぶりに復活
2000	休憩所「諏蛾守小屋」建設
	高田力蔵・川端康成生誕100周年記念「高田力蔵・川端康成～交流の軌跡特別展」が開催される（九重町）
2001	法華院第1回開山祭（以後毎年開催）
	環境庁から環境省へ改組 「くじゅう四季の草原、野焼きのかおり」が環境省かおり風景100選に選定
2003	「くじゅうタテ原地域自然環境学術調査書」が発行される（大分県・九重町）
	「久住高原みちくさ案内人倶楽部」が発足
2004	国立公園指定80周年記念行事「川端康成と高田力蔵そして赤峰武」が開催される（九重の自然を守る会）
2005	ラムサール条約第9回締約国会議（ウガンダ）で、「くじゅう坊ガツル・タテ原湿原」がラムサール条約に登録される
	「坊ガツル・タテ原湿原」ラムサール条約登録記念式典（九重町・竹田市）
	集中豪雨により、涌蓋山・三俣山等で大規模な土砂崩れが発生
	「九重の自然を守る会」が、自然観察ガイド研修講座を開講（～2008）
	竹田市、萩町、久住町、直入町が合併して竹田市となる
	挾間町、庄内町、湯布院町が合併して由布市となる
2006	「坊ガツル野焼き実行委員会」が「大分合同新聞社賞」を受賞
2007	「くじゅう坊ガツル地域自然環境学術調査書」が発行される（大分県・竹田市・九重町）
	「ラムサールフォーラムinくじゅう」が開催される（久住高原荘）
	「九重の自然を守る会」が「西日本文化賞」を受賞
	「九重ふるさと自然学校」（運営：一般財団法人セブンイレブン記念財団）が九重町に開校
	「くじゅうの自然に感謝する日」が始まる
	「くじゅう地区管理運営協議会」が、長者原ビジターセンターの指定管理受託（以後現在まで）
2009	「坊ガツル野焼き復活10周年記念式」が行われる（九州電力大分支店・九重の自然を守る会）
	「くじゅうネイチャーガイドクラブ」が発足
2010	九州自然歩道（長者原～坊ガツル間）で登山道改良工事が行われる（九州地方環境事務所）
	季刊誌「長者原だより」の発行開始（くじゅう地区管理運営協議会）
	登山道保全作業（石組み）講習会を実施（くじゅう地区管理運営協議会）
2011	「九重の自然を守る会」設立50周年記念総会・鼎談・パネルディスカッション
	長者原ビジターセンターが職員3人体制になる

	九州北部豪雨発生
2012	長者原ビジターセンターの年間入館者数が10万人を突破、全国でも指折りの入館者数のビジターセンターになる
2013	阿蘇くじゅう国立公園80周年イベント「フクロウから見える森の生きもの」及び、講演会「これからの国立公園の新しいカタチ『自然保護と地域経済とのかかわり』～アメリカ・イエローストーン国立公園の事例から～」を開催（くじゅう地区管理運営協議会）
2014	国立公園バリューアップ事業により、長者原ビジターセンター職員4人体制（国際化職員配置）
	阿蘇くじゅう国立公園指定80周年記念式典・イベントが開催される（イベント「くじゅうフェスin長者原」は、くじゅう地区管理運営協議会主催）
2015	長者原ビジターセンター及びタテ原湿原の木道がリニューアルオープン
	「山の日制定記念祭in大分・くじゅう」が開催される（大分県・九重町・竹田市）
	「KODOMOラムサール〈くじゅう坊ガツル・タテ原湿原〉」を開催（くじゅう地区管理運営協議会）
	「新」長者原ビジターセンター開館から来館者100万人を達成／100万人達成セレモニーを開催（くじゅう地区管理運営協議会）
2016	熊本地震発生（最大震度7）
	くじゅう地区管理運営協議会の通称名称を「くじゅうファンクラブ」とし、賛助会員の一般募集と寄付の受入れを開始するとともに、ホームページを開設
	現在に至る

\*この年表に記載した事項に関する文責は負いかねますのでご了承ください。